

施策評価（令和7年度）

戦略6 教育・人づくり戦略			
目指す姿1 秋田の将来を支える高い志にあふれる人材の育成			
幹事部局名	教育庁	担当課名	高校教育課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和7年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志を持ちながら、最先端のデジタル技術や高度な専門的知識を活用し、社会における様々な課題の解決や新たな価値の創造を実現できる多数の人材の輩出を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①、②】 高校生の県内就職率(公私立、全 日制・定時制)(%) 出典:県教育庁「秋田県高等学校卒業者の 進路状況調査」	目標			75.5	77.0	78.5	80.0	93.2%	3	
		実績	67.7	72.5	73.8	71.3	73.2				
		達成率			97.7%	92.6%	93.2%				
②	【施策の方向性①】 将来の夢や目標を持っている児 童生徒の割合(小6、中3)(%) 出典:文部科学省「全国学力・学習状況調 査」	目標			85.0	86.0	87.0	88.0	93.1%	3	
		実績	86.2	—	81.4	81.4	81.0				
		達成率			95.8%	94.7%	93.1%				
③	【施策の方向性①、②】 高校生のインターンシップ参加率 (公立)(%) 出典:県教育庁調べ	目標			64.5	65.0	65.5	66.0	89.3%	2	
		実績	64.6	—	48.2	61.3	58.5				
		達成率			74.7%	94.3%	89.3%				

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 \geq 100% 3点: 100% $>$ 達成率 \geq 90% 2点: 90% $>$ 達成率 \geq 80%
1点: 80% $>$ 達成率 \geq 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
2.67 (d相当)	4点 × 0個 = 0点 1点 × 0個 = 0点
	3点 × 2個 = 6点 0点 × 0個 = 0点
	2点 × 1個 = 2点
	合計 8点 ÷ 3個(判明済み指標) = 2.67

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

<p>【施策の方向性① 地域に根ざしたキャリア教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職場定着就職支援員(20名)を配置し、求人開拓や生徒・保護者に対する情報提供・進路相談を行ったほか、地域に根ざした企業を紹介する「ふるさと企業紹介」を実施した。 小・中学校においては、児童生徒の望ましい勤労観・職業観を醸成するため、職業調べや職場見学、職場体験等を実施した。将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は、目標値に届かなかったものの、全国平均(74.4%)を大きく上回っている。 就職情報ネットワーク会議等で関係機関の共通理解を図りつつ、インターンシップ推進事業とふるさと企業紹介事業等を系統的に実施することで、高い県内就職率を維持している。 <p>【施策の方向性② 社会の変化とニーズに応じた専門教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業人材育成事業において、3D-CAD等のデジタル技術の活用に関する専門知識及び技術を有する外部講師を活用し、由利工業高校と鹿角高校の高校1、2年生を対象とした特別講義を実施した。また、スマート農業に関する専門知識及び技術を有する外部講師を金足農業高校に派遣し、県内の農業科及び工業科の教員を対象とした教員研修会を実施することにより、最先端の技術を身に付けて活躍できる人材の育成に向けた指導力の向上を図った。
--

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
d	成果指標の達成率を基にした定量的評価は2.67で「d相当」であることから、総合評価は「d」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 .

4 県民意識調査の結果

質問文	学校教育を通じて、ふるさとを愛し、社会で活躍しようとする心が育まれている。					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	18.4%	13.8%	13.3%		△0.5
	十分 (5点)	2.3%	2.0%	1.7%		△0.3
	おおむね十分 (4点)	16.1%	11.8%	11.6%		△0.2
	ふつう (3点)	49.2%	43.2%	43.8%		+0.6
	否定的意見	15.5%	26.4%	24.1%		△2.3
	やや不十分 (2点)	9.7%	16.8%	16.1%		△0.7
	不十分 (1点)	5.8%	9.6%	8.0%		△1.6
	わからない・無回答	17.0%	16.7%	18.8%		+2.1
	平均点	2.99	2.76	2.79		+0.03

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校生のインターンシップについては、参加校が固定化されている傾向にあることや、生徒の希望が多様化していること等により、参加率が伸び悩んでいる。 ○ 職域拡大推進員の開拓により、実習可能、雇用相談可能な事業所の業種が増えたが、特別支援学校生が就職先として希望する業種の幅は広がっていない。また、事業所への障害者理解の啓発が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インターンシップの趣旨や目的、意義について、協議会等の機会を通じて理解促進を図るとともに、各高校による新規開拓や企業訪問等を推進し、参加率の向上につなげていく。また、「ふるさと企業紹介」等を通じて、秋田で働くことの魅力を発信していく。 ○ 部局横断プロジェクトを活用し、生徒が様々な業種を知る機会を増やすとともに、職業教育の充実を図るため、事業推進校において職業教育充実促進検討会を実施する。また、開拓事業所での実習においては、生徒に応じた仕事内容及び支援方法に係る情報提供を行い、障害理解を推進する。
②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 科学技術の進展や産業構造の変化等に伴い、地元企業等が生徒に求める専門的な知識・技術が変化している。また、指導する教員に必要とされる能力や指導内容も高度化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「AKITA DXハイスクール・ラボラトリー事業」を活用し、最先端の技術を身に付けて地元産業に貢献できる人材育成を図る。また、専門高校の教員等を対象とした最先端技術等に関する指導力向上研修会の機会を増やす。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「d」をもって妥当とする。
